



令和2年度決算の概要と事業報告

(3)貸借対照表 貸借対照表は、一定時点(決算日)における資産、負債、基本金の内容と在庫を明示して、学校法人の財政状況を明らかにしています。

貸借対照表 令和3年3月31日

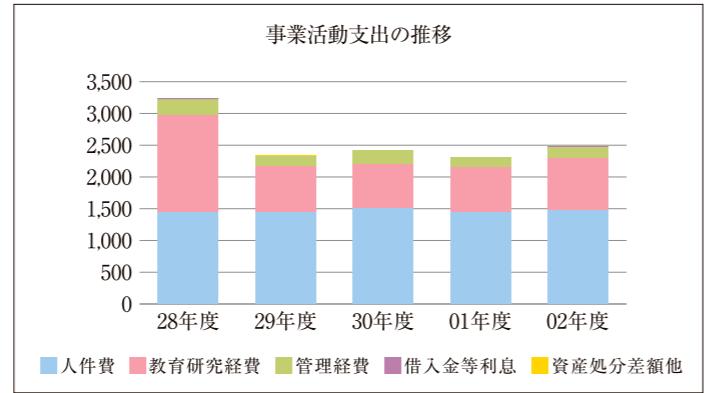
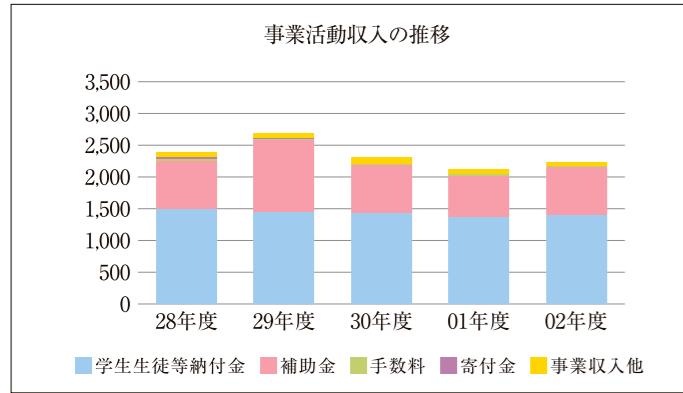
資産の部		(単位:百万円)			負債の部		(単位:百万円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	科 目	本年度末	前年度末	増 減		
固定資産	10,381	9,745	636	固定負債	1,141	582	559		
有形固定資産	8,770	8,037	733	長期借入金	800	200	600		
土地	1,023	1,023	0	退職給与引当金	288	303	△ 15		
建物	6,019	5,001	1,018	長期未払金	53	79	△ 26		
構築物	356	276	80	流动負債	616	584	32		
教育研究用機器備品	392	350	42	短期借入金	0	0	0		
管理用機器備品	38	38	0	未払金	73	76	△ 3		
図書	931	920	11	前受金	502	471	31		
車両	12	15	△ 3	預り金	41	37	4		
建設仮勘定	0	412	△ 412	災害損失引当金	0	0	0		
その他の固定資産	1,611	1,709	△ 98	負債の部合計	1,757	1,166	591		
有価証券	20	20	0	純資産の部					
退職給与引当特定資産	550	550	0	第1号基本金	14,651	14,119	532		
減価償却引当特定資産	100	100	0	第3号基本金	176	176	0		
施設設備引当特定資産	726	826	△ 100	第4号基本金	148	148	0		
第3号基本金引当特定資産	176	176	0	基本金の部合計	14,975	14,443	532		
施設設備寄附金引当特定資産	12	11	1	翌年度繰越支差額	△ 5,692	△ 4,918	△ 774		
流動資産	659	946	△ 287	繰越支差額の部合計	△ 5,692	△ 4,918	△ 774		
現金預金	581	866	△ 285	純資産の部合計	9,284	9,526	△ 242		
未収入金	52	58	△ 6	負債及び純資産の部合計	11,040	10,692	348		
有価証券	0	0	0	負債及び純資産の部合計	11,040	10,692	348		
仮払金他	27	22	5						
資産の部合計	11,040	10,692	348						

令和2年度末における固定資産(土地・建物・機器備品・特定資産他)と流動資産(現金預金・未収入金他)を合わせた資産の部合計は11,040百万円で、建物や教育研究用機器備品の償却を行った上で、九品寺キャンパス大学7号館建設等により、前年度末と比べて348百万円増加しました。

一方、長期借入金等の固定負債と短期借入金及び未払金等の流動負債の合計額は1,757百万円となり、前年度末と比べて591百万円増加しました。これは長期借入金の増加が主な要因です。

事業活動収支の推移

収入の部		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金		1,482	1,443	1,418	1,364	1,389
経常費等補助金		770	1,144	760	652	758
手数料		23	23	20	24	22
寄付金		35	6	4	8	3
付随事業収入+雑収入		72	66	104	74	55
事業活動収入計		2,386	2,802	2,317	2,122	2,236
基本金組入額合計		△ 25	△ 39	△ 75	△ 525	△ 532
支出の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
人件費		1,434	1,443	1,500	1,448	1,473
教育研究経費		1,528	733	696	698	818
管理経費		269	158	224	168	186
教育活動外支出		1	0	0	0	2
特別支出		0	4	0	0	0
事業活動支出計		3,232	2,338	2,420	2,313	2,478



2. 事業の概要

学校法人 尚絅学園

(1) 経営力の強化

- ①令和2年4月、私立学校法改正を踏まえ、学校法人尚絅学園寄附行為を改正し、理事・監事・評議員それぞれの責任・権限の明確化及び監事機能、理事会・評議員会機能の充実を図った。
- ②ガバナンス・コードを策定・公表し、大学機能の点検と業務改善に取り組んだ。
- ③各種規程と業務運用の点検・見直しにより、尚絅学園情報公開規程の制定、尚絅高等学校海外奨学金規程、尚絅学園事務組織規程の一部改正等を実施した。

(2) 強固な財務基盤の構築

- ①中期財務計画の進捗管理と検証に基づく厳格な財務運営の実現に努めた。
- ②学生生徒等納付金の見直しを行い、令和2年度入学生から大学・短大で年額50千円、中高で年額30千円の納付金値上げを実施した。
- ③補助金の獲得に積極的にチャレンジし、外部資金の獲得にも取組んだが、採択条件を全て満たすことは出来なかった。

(3) 人材育成の強化

- ①公平性・公正性・納得性のある人事評価の確立に向け、評価者訓練及びフィードバックの徹底に取り組んだ。
- ②全学的なSD-FDに取組み、資質・能力の向上に努めた。

(4) 施設設備及び教育・研究環境の充実

- ①令和3年1月、九品寺キャンパス内に大学7号館を新築し、現代文化学部を移転した。
- ②高度情報化やグローバル化及び新型コロナに対応するため、全学DX推進化プロジェクトを立ち上げると共に、ICTを活用した遠隔授業等学修環境の整備に努めた。

尚絅大学・尚絅大学短期大学部

(1) 教育と学修の充実

- ①建学の精神、教育理念に基づく自校教育の推進のため、全学科で「基礎セミナー」において自校教育を実施し、全学共通講科目として「熊本学」「日本伝統文化入門」を開講した。
- ②第3期認証評価システム(内部質保証)に関するPDCAサイクルの確立のため、自己点検・評価、授業改善アンケート、卒業生アンケート等を実施した。

(2) 学生の確保

- ①令和3年2月末に現代文化学部を九品寺キャンパスへ移転し、4月から新キャンパスでの授業開始ができるよう対応した。
- ②全学部において入学者選抜における評価を見直し、「学力の3要素」について多面的・総合的な評価が可能となる入試方法に取り組んだ。
- ③生活科学部に於ける新コース・資格等の導入の検討を行った。

(3) 学修環境の整備

- ①学生の身心の健康維持・向上のため、疲労蓄積度調査、及び学生生活実態調査を行い、心的疲労度の高い学生については、臨床心理士及び養護教諭と連携して対応した。
- ②新たな学生相談体制構築のため、他学の相談体制の調査を行い、キャンパスソーシャルワーカーの導入を決定した。

(4) 学生支援の充実

- ①中途退学防止に向け、予備軍の早期発見と情報共有を徹底し、必要に応じ面談等を実施した。
- ②リカレント教育の環境整備として、社会入学生奨学金(給付型)制度を新設した。

- ③令和2年7月の豪雨災害において、尚絅ボランティア支援センターが中心となり、学生と教職員が協力して、被災地支援の活動に取り組んだ。
- ④コロナ禍におけるキャリア形成、就職支援が大きく変わる中、積極的にオンライン企業説明会等に取り組み、最大限の学生支援に努めた。

(5) 研究力の強化

- ①研究倫理の遵守のため、研究倫理に関する諸規程と研究倫理教育実施要領に基づく教育(eラーニング)の内容の確認及び、教職員各自の役割の確認を行った。
- ②各研究センターにおいて、特色のある取組みを積極的に実施し、着実な成果を挙げた。

(6) 社会連携の強化

- ①尚絅子育て研究センターにおいて、保護者の早期離職予防の相談支援や附属こども園子育て支援室との連携による地域子育て支援・相談の開催を実施した。
- ②尚絅食育研究センターにおいて、九州農政局と連携し食生活に関するパネルの展示やシールアンケートを実施した。
- ③尚絅地域連携推進センターにおいて、熊本県との共同事業として「くまモン学」をスタートさせた。

(7) 國際交流の体制整備と拡充

- ①国際交流に関する体制整備の強化として、グローバル化推進センターを開設し、九品寺キャンパス7号館内にグローバルラウンジを設置した。

(8) IR機能強化と自己点検・評価への適切な対応

- ①IR機能の強化のため、大学企画室機能の充実と強化に取組み、各種分析・進捗管理等を強化した。